

円満な人柄と研究会への愛情

守山 智子

昨年8月、大工英に随分とご無沙汰で敷居が高いなあ・・・と思いながらも参加させて頂き、皆様の変わらぬお姿とともに、一層穏やかなご表情の徳永さんにお目にかかり、嬉しいひと時をもつことが出来ました。卒寿もすぐ目の前、その時も必ずと思つて帰宅した次第です。

しかし、年賀状の返礼としてご子息よりご丁寧なご挨拶を頂戴し、かなり弱つておいでなのかと感じを受けましたが、大工英の心の支えとしてまだまだご有命頂けることと祈っておりましたのに。でもあの会での表情は仙境に入られたかのような優しさでしたもの、すばらしい大往生を遂げられたことは確信しております。

徳永さんのお名前は、「工業英語」誌上で度々拝見しておりましたが、大ベテランのお方、とてもお付き合いができるなんて考えてこともなかったのですが、大阪でも研究会が発足し、「工業英語」誌を通じて入会のお誘いを受けたことがご縁となり、10年以上も親しくさせて頂いたことは大きな喜びでございました。いろいろなことがありながらも、大工英がここまできたのは、何と言っても水上先生のご好意と熱意、徳永さんの円満なお人柄と並々ならぬ大工英への愛情によるものと信じております。私は実力に限界を感じ、他の事情もあつて退会致しましたが、大工英の一層の発展こそ、徳永さんのお志に報いることだと存じます。

改めて徳永さんのご冥福をお祈り申し上げます。

合掌